

対象年度		平成31年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート									
事務事業名		畑地帯総合整備事業						予算事業名		畑地帯総合整備事業費			
予 算 科 目	会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令	土地改良法				
			06	01	07	2001	経常経費						
総合計画体系	3歴史と自然を育む活力あるまちづくり(産業)							事業の区分	主要事業				
	3-1元気あふれる農業の振興(農業)												
	③農村環境の保全							担当課係等	耕地課				
	3農業生産基盤の整備								土地改良係				
事業期間		継続 (平成28年度～平成37年度)											
【めざす姿(意図・どのような状態になるのか)】							【事業開始のきっかけや他市の状況など】						
武井地区において、霞ヶ浦農業用水を導入し、畑地を主体とした基盤整備を実施して農地の集団化や農道整備を行うことにより、農作業の効率化や生産性の向上を図るとともに、担い手農家の育成を図る。							武井地区の畑地については区画形状が悪い、道路が狭い、排水が良くない等といったことから、総合的整備の機運が高まってきたことによる。なお、近隣の江川新宿地区で同様事業にて整備済みである。						
【手段(事業内容・どのようなことを行うのか)】							【対象(だれに対して・何に対して行うのか)】						
武井地区において、県営事業として実施する農地の区画整理、農道整備、用排水整備等の総合的整備に対し、事業費の一部を負担							受益者及び受益地(武井地区)						
							【事業をとりまく環境の変化】 平成28年度に武井地区県営畑地帯総合整備事業推進協議会が設立され、事業推進に取り組んでいる。						
【平成31年度 事業内容】			【平成32年度 事業内容】					【平成33年度 事業内容】					
測量・設計・換地原案作成			区画整理工					区画整理工					

■事業費

		H29年度	H30年度			
財源内訳	国庫支出金	0	0			
	県支出金	0	0			
	地方債	0	0			
	その他の	0	0			
	一般財源	4,000	1,250			
歳入計(千円)		4,000	1,250			
歳出内訳	節(番号+名称)	金額(千円)	金額(千円)			
	19 負担金補助及び交付金	4,000	1,250			
歳出計(千円)(A)		4,000	1,250			
伸び率(%)			-68.75			
備考	総合計画97ページ 予算書120ページ					

平成29年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		H29年度	H30年度	H31年度
活動 指標	武井地区県営畑地帯総合整備事業推進協議会の開催	回	目標	2.00	2.00	2.00
	総会・役員会		実績	3.00	0.00	0.00
	本同意取得のための地元説明会の開催	回	目標	0.00	4.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標	事業化のための本同意取得	%	目標	0.00	100.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
	換地原案の作成	作成数	目標	0.00	0.00	1.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	武井地区については、現在の畑地の区画形状や狭小な道路、水はけ等の問題があり、耕作に不利な地区であるため、事業化による総合的な整備をもって効率化を図りたい。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	地元で推進協議会を設立し運営している。事業については、規模的条件により県営とする。市として事業経費の一部を負担することは妥当である。
	手段の妥当性	A 妥当である	事業規模により、県営事業として進めるのが適切と考える。
効率性	コストの効率性・人員効率	A 改善の余地はない	市・県・地元推進協議会で適宜調整して進めている。
公平性	受益者の偏り	B どちらとも言えない	本事業の対象とする受益者に限られるが、公平に便益を供給できるよう調整する。
有効性	成果向上の余地	A 上がっている	同様事業を実施した江川新宿地区においては、霞ヶ浦用水の安定供給が可能となり、また昨今頻発する豪雨などによる被害もないことから、成果向上が期待できるものとする。
進捗度	事業の進捗	A 順調である	今年度事業採択に向けて進めている。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
事業の円滑な進捗のために、関係機関等との連絡調整を密にする必要がある。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
事業主体となる県や関係機関との連絡調整を密にし、受益者の理解と協力を得ながら事業の進捗率を上げていく。			

■方向性

1 次評価（1 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☒ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） 今後、事業が本格化するが、県や地元協議会と連携を取り、地元の意向が最大限に反映されるように努める。	
2 次評価（2 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
企画調整会議の意見・考え方（1 次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり。	